

## 第3回京都山城便教会

平成27年5月17日（日）

今回の会場は音川先生が勤務されている城南菱創高等学校。私がお世話になった先生方の学校を回っていきながら、思いをつないでいく京都山城便教会。今回もその思いをつなぐ非常に素晴らしい会となりました。

今回、私ははじめてリーダーをさせていただきました。それは、第2回の際に、リーダーの在り方について考えさせられたからです。今までリーダーは、すべてをパーフェクトにしなければならず、実力がないと引っ張っていけないと思っていました。しかし、こうやって京都山城便教会の世話役をさせていただいて感じたのは、自分ができない部分は必ず誰かがサポートしていただけるということでした。自分一人がすべてをやるのではなく、みんなでやる。「一人の百歩より、百人の一步」という言葉を肌で感じさせていただきました。その体験をさせていただいたおかげで、今回リーダーをやってみようと思いを踏み出すことができました。

リーダーをやってみる上で、基本は同じなのですが、全くのコピーだと私がやる意味がありません。そこに自分らしさ、自分の考えを織り交ぜることが大事であると感じ、冒頭の話の次のように考えました。

今回のテーマは「生徒指導とトイレ掃除」です。

みなさん、目をつむってください。「今抱えておられる課題、悩みは何ですか」。その課題に向き合おうとは思いますが、誰かのせいにしてたり、避けて通ろうとしたり、誰かがやってくれるのを待っていたりしませんか。そこと「覚悟の左手」をつなげてください。「汚いな」と思って躊躇している姿と、目の前の問題に対して躊躇しているのは同じことではありませんか。左手でガシッと便器を掴むということは、肚を決めるということです。その習慣が問題と向き合う習慣になるのだと思います。

次に、道具です。このサンドメッシュをクラスの生徒だと思ってください。つい、真ん中のやりやすいところばかりを使用してしまいがちですが、クラスでもやりやすい生徒ばかり相手にしてしまいませんか。そして端っこも同じ素材なのに、全くその部分は生かさず、放ったらかしになっていませんか。この道具のすべてを生かすためには、どうすればいいのか。それがクラスの生徒全員を生かすことになるのではないのでしょうか。そんな視点も持ちながらトイレ掃除に向き合ってみてください。

このような話をさせていただき、トイレ掃除に入っていました。

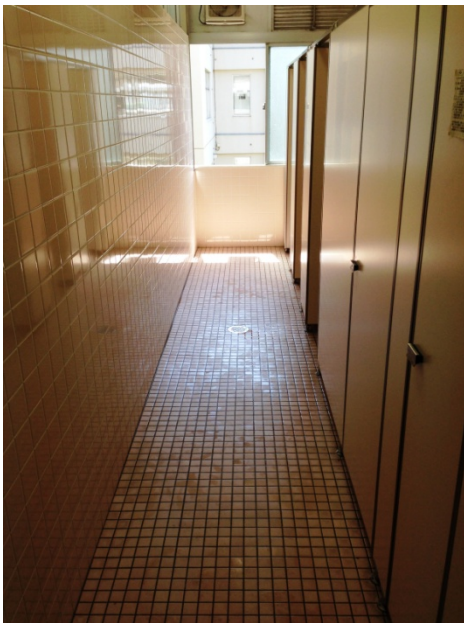
トイレ掃除に入ると必要最低限の会話だけにとどめ、一心不乱に便器と向き合われている姿がありました。ただひたすら、「シュッシュュッ」というサンドメッシュの音だけが響いており、トイレの中の空気がどんどんと磨かれていきました。



そんな中、京都掃除に学ぶ会の皆様からは、絶妙なタイミングでアドバイス。「水を押しこむときは、こうすればいいですよ」「こういう場所はこんなふうになればいいですよ」と実際に目の前で見本を見せていただきながら、私達をリードしていただきました。

その1つに「壁はスポンジでやるのが常なのですが、どうしても感覚が弱くなるので、私は雑巾の方が良いと思うんですよ」というお話から、それなら一度やってみようということで、雑巾で壁を拭きました。

まず驚いたのが、壁が見た目とは全然違ってかなり汚れているということ。白の雑巾に手形がつくぐらい汚れており、真っ白な雑巾がたちまち真っ黒になりました。スポンジだったら見逃していたことも、雑巾でしたことで気付くことができました。さらに掃除の会の皆様は、こう言われるのです。「真っ白な雑巾だから、気付くことができた、だから雑巾をきれいに洗濯しておくことも大事だよな」。常に掃除道具をきれいな状態にしておくことの意味をこういったところでも感じさせていただきました。



この5月17日という日に、音川先生の学校で第3回京都山城便教会を行ったということが実は非常に意味深く、見えないところでつながっている何かを感じ、それをつないでくれているのがトイレ掃除であるというすごい体験をしました。

この日は音川先生の奥様の誕生日であったため、何かの縁だからと会場校に名乗りをあげていただきました。そして、トイレ掃除後の交流会で、音川先生が「昨年に亡くなられた掃除に学ぶ会の方が、次は音川先生の学校で会いましょうと言っていたのが最後でして、そのことが今でも残っているのです。」とおっしゃると、他の参加者から「今日はちょうどその方の一周忌、命日ですよ」と言われ、思わず涙がこぼれました。

トイレ掃除の会は、その場にいる方々に支えられているのはもちろん、見えないところで、そして遠いところからでも支えていただいているのだと感じました。そして、「トイレ掃除を続けていると不思議なことが起こるんです」と掃除を実践されている方はみな言われます。

本日の交流会の中で、「掃除は大事と信じられるかどうか」と提起がありました。いろいろ調べて、掃除には効果があるなどと頭では分かることができます。でも、それでは続けられません。本当に掃除が大事だと信じていれば、いくら忙しくても、いくら用事が入ってもやると思います。それが心で感じるレベルではないでしょうか。

信じて行った結果、不思議なことが起こる。でも、その不思議なことは実は必然である。矛盾なことのように、実は本質をついている。「たかが掃除 されど掃除」。この言葉の意味と深さを考えながら、そして今後もこの意味を追い求めながら、これからも京都山城便教会を続けていきたいとしたいと思います。ありがとうございます。

(小笹 大道)